ビジネスシーン別・手土産の選び方（第8回）

バレンタイン。ビジネスでもやっぱり効く

2016.02.12

2月14日はバレンタインデーです。最近は「義理チョコ」の風習もずいぶん下火になったようですが、やはり「もらうとうれしい」という声も多いもの。この時期、お客様訪問の際、あえて手土産にチョコレートを選んでみてはいかがでしょう。

日頃手に入りづらい特別な逸品を

このシーズン、どこのデパートも、地下の食品売り場や催事場などでバレンタインデーのコーナーを設けています。実は普段、手に入りづらいブランドやメーカーのチョコレートを手に入れるチャンスでもあります。

中でも今回、お薦めしたいのは『マリベル』のチョコレート。本店はニューヨークにあり、日本にある支店は京都だけです。三条通の古い町屋にある、まるで中世ヨーロッパのようなエレガントな空間に鎮座しているのが『マリベル』のチョコレートなのです。



美しいプリントは、まるで小さなアートボックスのよう

定番商品は、色鮮やかな絵柄がプリントされた「SIGNATURE ART GANACHE」。マリベル氏の夫がデザインした絵がプリントされ、まるでアート作品のようです。ラベンダー、ピスタチオ、シャンパン…とテイストごとにデザインも違います。そして、一粒ずつにロマンチックなポエムが添えられています。それを見ながら「この味にはこんな思いが込められているんだ！」と、オフィスで盛り上がってもらえるかもしれません。

ニューヨークの本店にはヒラリー・クリントンや故スティーブ・ジョブズ氏も通っていたといわれています。「The New York Times」に「世界で最もおいしいチョコレート」と称されたこともあるそうです。

甘すぎない上品な味で、大人のバレンタインデーにぴったり… 続きを読む